主な答弁　1-4

日頃から医師との「顔の見える関係」において専門性の把握もしております。

しかしながら、1秒でも早く医師の管理下に傷病者を搬送することは、傷病者の早期の治療開始に繋がることから、当直医師名や医師の専門性など、医療機関のより詳細な情報を持つことは、搬送先病院選定を行う上で、有効であると考える。情報の共有化について、関係医療機関と調整を図っていく。

　1-5

　ICTの活用については、総務省消防庁の「救急業務のあり方に関する検討会」においても検討中である。本市においても画像伝達システム等の活用で、傷病者に的確な応急処置を実施する上で、有効なツールと認識している。国の動向を注視しながら、関係医療機関等との調整を図っていく。